

現地存続分科会 C案改訂版提案委員の意見

項目		C案 (委員提案) ※内容は、事務局として検証した「たたき台」	C案改訂版 (委員提案) ※変更点は提案委員による見解
対策工事の概要		軟弱盛土撤去 + 新たな敷地造成 + 一部建替え	軟弱盛土撤去 + 新たな敷地造成 + 一部建替え
		・軟弱盛土撤去+新規造成+新設道路築造	・軟弱盛土撤去+新規造成+新設道路築造
対策工事の比較	学校施設	・校舎を解体撤去 ・軟弱盛土を撤去し造成 ・校舎規模を縮小して建替え(設計1年、工事2年) ・南・北体育館、プールは既存のまま	・校舎を解体撤去 ・軟弱盛土を撤去し造成 ・校舎規模を縮小して建替え(設計1年、工事2年) ・南・北体育館、プール部を830mに改良
	盛土対策	・軟弱盛土(11万㎡)を全て撤去 ・南北体育館・プール敷地を除き、地表面を11～13m切土により下げ造成(工事期間:最短で2年)	・軟弱盛土(11万㎡)を全て撤去 ・北体育館敷地を除き、地表面を10m(現840mを830m)にする
	地すべり対策	・地下水、雨水排除用の排水工を施工	・地下水、雨水排除用の排水工を施工
	校舎背後の切土法面 及び 急傾斜地特別警戒区域の崩壊防止対策	・対策なし ・更に下へ約11m切り下げる	・一部法枠工 ・更に下へ約11m切り下げる
	仮設工事	・のり面改良用仮設盛土を設置 ・工事用運搬路を盛土により設置	・のり面改良用仮設盛土を設置 ・工事用運搬路を盛土により設置
	概算事業費	盛土撤去費 約6億円～ + 校舎建設費	盛土撤去費 約10億円～ + 校舎建設費
	工事期間	最短で約5年	最短で約5年

敷地としての要件検証 (文部科学省小学校整備指針留意事項)	校地環境		適合性	適合性
	地すべり、がけ崩れ等自然災害に対し安全	・軟弱盛土を撤去し対策工事を実施(11万㎡) ・新たな大規模切土法面对策が必要	×	・軟弱盛土を撤去し対策工事を実施(11万㎡) ・大規模法面对策→安定勾配に改良し旧地山に戻し(別途植栽、芝植等)
	建物等安全に設定できる地盤	・軟弱盛土を全て撤去し安定地盤に建築	○	・軟弱盛土を全て撤去し安定地盤に建築
	危険な高低差等ない安全な地形・過大な造成を避ける	・新たな大規模造成による切土により、敷地を分断する高さ約11～13mの法面が約200m亘り設置される	×	・安定勾配にすること(高さ10mでも安全な斜度また法面上部に植栽等の垣根orフェンス ・南体育館、プール部も10m切土し830mラインに改良し、敷地をバリアフリー化する
	一定幅以上の接道	・敷地南東側に進入路を新設	○	・敷地南東側に進入路を新設
	排水の便が良好	・対策工事実施	○	・対策工事実施
	適正な面積・形状			
	必要な学校施設を整備できる面積	・現状面積の確保は未定	×	・有効面積は校舎、校庭9400㎡、南体、プール4600㎡、北体1200㎡、合計15200㎡
	まとまりのある適正な形状	・現状と同等の形状は確保できない ・既存施設との高低差が10m以上となる	×	・南体育館、プール部も10m切土し830mラインに改良し適正な形状にする。ただし、北体部への連絡通路は現状より延びる
	校地利用			
	災害時等の安全を確保することができるよう各施設部分を配置	・南体育館、プール敷地等と造成敷地の緊急車両等のアクセス道路がない	×	・北体は現状通り(上部道路より)、あとは現状同様問題なし
	配置構成			
	各施設部分の機能的な連携の確保	・高低差の大きい敷地の分断により、施設間の連携が困難	×	・南体育館、プール部も10m切土し830mに改良し北体以外現状維持
	日常、災害時共、児童の安全な移動経路の設定	・大規模造成の敷地分断により安全な移動経路の確保ができない	×	・北体以外現状維持
	周辺の景観との調和・景観形成	・大規模な切土法面、進入路造成により、本来の自然環境は消失する	×	・現状の景観は樹木が大きくなり過ぎて落ち葉、花粉の悪影響等有、見通しが悪い、倒木の危険等を改善、新たな樹木対策(桜、紅葉、クスギ等の広葉樹)を施し、現状以上の自然

項目		C案 (委員提案) ※内容は、事務局として検証した「たたき台」	C案改訂版 (委員提案) ※変更点は提案委員による見解
対策工事の実施	課題の整理		
	工事期間中の児童の居場所	・工事期間中は他校等への移転が必要	・仮設校舎へ移転(例えばラウ岡谷2階、校庭は5階を利用、駅南に仮設体育館等)。どうしてもなければ分
	工事の難易度	・大規模土工による安全性の確保 ・他に例のない実施困難な大規模土工(切土11万㎡)である ・工事期間中における防災対策の難易度が非常に高い ・仮設工事、土撤去期間中(最短2年)の安全な仮設運搬路造成には、新設道路と同等の安全性確保が必要 ・搬出土の処理が大きな課題(11万㎡の処分) ・残土運搬は、11tダンプで約22,000台となり、周辺生活道路への影響は計りしれない	・工事期間は改良工事2年、校舎新築2年、設計1年、計5年。工事期間中は安全対策は当然実施、残土運搬は半分は間下口より、残りは岡谷口進入道路より搬出。残土処理地は岡谷区区有林しだれ栗横楡沢に搬出。
	敷地盛土対策、地すべり対策	・地盤の安全性は確保可能 ・大規模な切土法面が新たに出来る	・大規模な切土法面は安定勾配となり問題はない。
	校舎西側法面の安全性 (急傾斜地特別警戒区域指定)	・対応していない ・更に下方部を大きく切土することになり危険性が増加	・校舎背後は法枠工実施、下方部は安定勾配とする。
	工事内容の精度	・改良地盤と既存施設の接続が困難 ・適正な敷地面積(平地)確保が未定 ・既存敷地へのアクセス確保には、延長100m以上の道路計画が必要 ・提案内容による工事には検証が必要	・北体との接続は距離は延びるものの他は現状維持。南体、プール部切土によりアクセスは問題なし。敷地面積15200㎡確保。
	事業の経済性	・残土処分地の想定が難しいため、土撤去、運搬処理費の想定は3.3億～10億円と不確定、そのための工事費は非常に不確定となり検証が必要	・別紙見積書による。
	関係法令等		
	土砂法の指定区域	・土砂法の特別警戒区域・警戒区域指定地	
	急傾斜地法の指定区域	・急傾斜地法の区域指定地内	
	都市計画法の開発行為	・許可が必要(都市計画法開発行為許可) ・開発面積3,000㎡以上、切土した部分に2mを超える崖を生じるもの	・既存建物の改築につき開発行為にはならない。
	建築基準法の建築(用途地域指定)	・建物の高さ10m(2階程度)に制限 ・新設地盤と南体育館の地盤との差約12m	・新設地盤と南体育館の地盤差解消。
考察 (分科会)	メリット	・軟弱盛土部は撤去される	・軟弱盛土は撤去され、震度5強～7による崩落、地下水、雨水の危険から、小学校と直下の住民の安全を確保 ・小学校敷地は適正、切土法面は安定勾配で旧地山に ・新たな自然環境を創造できる。 ・避難道路が2方向となり避難場所に十分対応できる。
	デメリット	・対策工事に長い期間を要し、多額の費用が想定される ・工事期間中の児童の移転が必要 ・まとまりのある適正な配置とならず、小学校敷地としての要件を満たしていない。安全な環境とは言えない。 ・大規模な切土法面が新たに生じてしまう ・工事の施工が極めて困難	・工事期間は4年、設計1年、合計5年を要する。費用は地盤改良約10億+校舎新築18億、合計28億弱か ・工事の施工は難工事ではあるが、通常の改良工事で ・工事期間中は仮設校舎に移転、もしくは分散となる。
	総括	・軟弱盛土を撤去するというコンセプトは明快ではあるが、長期間にわたる児童の移転、大規模土工を伴う工事内容等、当案を選択できる可能性は極めて低く、対策案としての実施は困難である。	・原点である軟弱盛土の撤去により、小学校と直下の住民の安全対策は同時に解決できる。 ・長期間の移転による児童の負担、工事金額はかかるが、安全と自然環境を生かした情操教育を創造することはそれ以上に重要である。 ・地下水源が敷地より上部になり、地下水利用ができる(上水、養殖の水等)。 ・新築校舎に太陽光を設置し、工事費用の軽減が可能。 ・倒木、落ち葉、花粉の弊害を解消し、寝張り、保水力を持った自然林に新たに創造できる。 ・防災避難施設にして使用できる。 ・しだれ栗上の残土処理地に栗の木を植栽し、辰野町と共同で名所地を形成でき、栗販売の新しい産業を市